第３回　新しいまちづくりのグランドデザイン推進本部会議
《議事概要》

■　日　時：令和４年 11 月２日（水）　午後４時から午後４時 45 分
■　場　所：大阪市役所 屋上階　P1 共通会議室
■　出席者：会議資料「出席者名簿」のとおり

（司会）
ただいまより第３回新しいまちづくりのグランドデザイン推進本部会議を開催いたします。本日は、ご多忙の中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。私は、本日の司会を務めさせていただきます、事務局の大阪都市計画局技監の尾花でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。
それでは、開会にあたりまして推進本部本部長の吉村知事よりご挨拶をお願いします。

本部長（吉村知事）
知事の吉村です。
本日は、第３回新しいまちづくりのグランドデザイン推進本部会議に、松井大阪市長、永藤堺市長、野田市長会会長、田代町村長会会長、ご出席賜りましてありがとうございます。また、関係者の皆さんもありがとうございます。
大阪のまちづくりグランドデザインは、まさに大阪のまちづくりの羅針盤になると思っています。大阪の成長にとっても、府民の皆さんの暮らしを豊かにするという意味でも非常に重要だと思っています。大阪府と大阪市というのは、二重行政でまちづくりが同じ方向を向かないという状況が続いていましたが、今ここに、知事、市長、府内の市町村の代表が一緒になって大阪のまちづくりを考え、定めて、実行していく、まさにまちづくりのグランドデザインの羅針盤ができるということは、本当に有意義なことだと思っています。2025 年の大阪・関西万博に向けて、うめきた 2 期の整備、御堂筋の側道整備、なんば駅前の広場、森之宮周辺での大阪公立大学のキャンパス、中之島の未来医療国際拠点など、都心部において、先進的なまちづくりをしていくことが非常に重要だと思いますが、あわせて大阪の成長を大阪全体に広げていくということも非常に重要です。そういった観点から、今回のまちづくりグランドデザインは、都心部での開発効果を広げるとともに、それぞれの拠点、府内各地のポテンシャル・ストックを活かしたそれぞれの拠点のまちづくりも、具体的に計画に落とし込むという、まさに大阪のまちづくりの全体像、羅針盤を示すものだと思っています。
先般、新大阪駅周辺の緊急整備地域の指定もありました。これから大阪・関西万博、そしてその先、成長していくために、大阪全体のまちづくりである羅針盤、グランドデザイン大阪を皆さんと一緒になって作り上げていきたいと思います。また、民間の皆さんにも入って

いただき、一緒になって作っていきたいので、活発な議論をよろしくお願いします。
本日はありがとうございます。

（司会）
ありがとうございました。
出席者の紹介につきましては、お手元に配付の出席者名簿及び配席図をもって代えさせていただきます。
また、資料につきましては、次第に掲載しているものをお手元にお配りしております。万が一、資料の不足等がございましたら、挙手にてお知らせください。
さて、本日は前回、夏の７月 14 日に開催した推進本部会議において、お示しをした中間とりまとめ案を、その後、市町村、並びに議会等でのご意見を踏まえまして、今回「大阪のまちづくりグランドデザイン（案）」としてとりまとめをいたしましたので、ご議論を賜りたいと存じます。それでは、議事次第に基づき、議事を進めさせていただきます。
大阪のまちづくりグランドデザイン（案）について、大阪都市計画局 計画推進室の山田室長より、資料を説明させていただきます。

（事務局）
議事の「大阪のまちづくりグランドデザイン（案）」について説明します。まず、A3 の資料１をご覧ください。ここでは、グランドデザインの全体構成について説明します。１．では大阪都市圏からみた特徴・役割を、２．ではめざすべき都市像として（１）まちづくりの目標、（２）大阪を取り巻く都市構造、（３）めざすべき都市構造を示しています。次に３．では、めざすべき都市像の実現に向けたまちづくりの戦略と取組の方向性として、戦略１から戦略３を、またこれらを支える戦略として戦略４と戦略５を示しています。さらに、４．では、グランドデザインの推進に向けて、それから、５．の取組ロードマップ、さらには６．ではまちづくりマップを示しています。特に中間とりまとめ以降、戦略１の各拠点エリアの具体化や、４．グランドデザインの推進に向けて、５．取組ロードマップ、６．まちづくりマップについて、具体化を進めてまいりましたので、それぞれの内容について、説明資料に基づいて説明します。
それでは、説明資料をご覧ください。表紙に今回のグランドデザインの策定趣旨を記載しておりまして、まちづくりを取り巻く様々な新たな潮流が生まれていることなどを踏まえまして、ポストコロナを見据え、大阪・関西万博やスーパー・メガリージョンの形成等のインパクトを活かし、東西二極の一極を担う「副首都」として、大阪がさらに成長・発展していくため、大阪都市圏全体を視野に、2050 年を目標として、大阪全体の大きなまちづくりの方向性を示す大阪のまちづくりグランドデザインを策定すること、今後、都心部等での国際競争力を備えた拠点エリアの形成や、各地域での特色ある拠点エリアの形成、さらには、大阪ならではの魅力を活かした、暮らしやすさ No.1 都市の実現等によりまして、未来社会

を支え、新たな価値を創造し続ける人中心のまちづくりを進めること、さらには、このグランドデザインを羅針盤としまして、民間の活力を引き出しながら、多様な主体が一体となって、大阪全体のまちづくりを推進することなどを記載してございます。

１ページ目をご覧ください。

ここでは、大阪都市圏からみた特徴・役割としまして、西日本経済の中心、それから世界のゲートウェイとしての役割とともに世界最大級のスーパー・メガリージョンを構成する西の核としての機能を担うこと、それから放射・環状方向に発達した交通ネットワークを中心に市街地が連坦し、コンパクトな府域を構成していること、近隣府県の主要な都市と一体となって広域的な経済交流圏を形成していること、さらには大都市でありながら都市に近接した自然や多様な地域資源が集積していること、今後、社会情勢の変化や技術革新の見込みなどに的確に対応しつつ、大阪・関西万博やスーパー・メガリージョンの形成等のインパクトを活かし、さらに成長発展していくためのまちづくりが求められていることをお示ししてございます。

めざすべき都市像では、まちづくりの基本目標といたしまして、『未来社会を支え、新たな価値を創造し続ける人中心のまちづくり』を掲げ、将来像として、まず一つ目が「魅力的な国際都市として成長する大阪」、二つ目としまして、「健康長寿で誰もが幸せを実感しながら暮らせる大阪」、三つ目としまして、「未来へつながる安全・安心な大阪」を位置づけてございます。

また、まちづくりの推進の視点としましては、「多様性の確保」、「共創」、「資源の活用」を掲げてございます。

次に右側の２ページ目をご覧ください。

ここでは、グランドデザインで掲げる将来像をわかりやすくお示しするために、都心部から周辺山系までの将来のまちのイメージをお示ししてございます。

次に３ページをご覧ください。

ここではまちづくりを支える都市構造として、大阪を取り巻く都市構造を①から③の通り整理してございます。

まず①では広域的な都市構造といたしまして、大阪都心部を中心に国土軸や環状軸、それから空港・港湾・新幹線等の広域交通インフラ等で、構成される広域的な都市構造を有してございます。

また、②は府域の都市軸といたしまして、都心部を貫く「東西・南北都市軸」や放射方向に伸びます８つの都市軸および中央環状軸を位置づけてございます。

③は府域のゾーニングといたしまして、大阪都心部、都心部周辺、郊外部、それからベイエリア、河川空間、周辺山系の６つのゾーニングを設定してございます。

次に４ページ目をご覧ください。

めざすべき都市構造をお示ししてございます。

広域レベルでは広域的な都市構造を活かした都市圏の形成といたしまして、スーパー・メ

ガリージョンの西の核、世界のゲートウェイにふさわしい都市圏を形成することとしてございます。

また府域レベルでは、「マルチハブ＆ネットワーク型都市構造の形成」といたしまして、都心部等での拠点形成とともに、その拠点開発効果を府域に波及させていくことや、新型コロナ禍を契機といたしまして、府域の様々な地域において、多様な働き方、暮らし方を選択できるまちの実現が求められていることから、都心部やベイエリアにおける国際競争力を備えたエリア形成とともに、放射・環状の交通ネットワーク上を中心に多様な都市機能を備えた特色ある拠点エリアや、魅力ある生活圏を形成し、相互に連携する都市構造をめざすこととしてございます。

続いて、まちづくりの戦略と取組の方向性です。

めざすべき都市像の実現に向けましては、広域的な視点から取り組むべき５つのまちづくりの戦略を示してございます。それぞれの戦略につきましては、次ページ以降でご説明したいと思います。

５，６ページをご覧ください。

戦略１では、「成長・発展をけん引する拠点エリアを形成」することを位置づけてございまして、広域的な都市構造や府域の都市軸、ゾーニング、それから今後のまちづくりの動向等を踏まえまして、拠点性を発揮すべき一体的なエリアを示し、公民連携のもと、新たな民間投資を誘発するとともに、多様な主体の参画や広域連携の取組によりまして、エリア価値を高め、大阪・関西の成長・発展につなげる、としてございます。

まず「世界で存在感を発揮する拠点エリア」につきましては、都心部やベイエリアにおきまして、国際競争力を備えた、拠点エリアを形成することとしており、現行のグランドデザイン大阪で象徴的なエリアとして設定してございました、大阪市内の都心５エリアおよび夢洲・咲洲に加えまして、今回、新たに「堺都心周辺エリア」と「関空・りんくう周辺エリア」を設定してございます。それぞれの拠点エリアの詳細につきましては、資料２の 20 から 27 ページに記載してございますので、また後ほどご覧いただきたいと思います。

説明資料の７，８ページをご覧ください。

ここでは、「大阪の中核を担う拠点エリア」については、都心部の拠点開発効果の府域への波及や新型コロナ禍を契機とした多様な働き方、暮らし方を選択できるまちの実現に向けまして、都心部周辺や郊外部において、多様な都市機能を備えたエリア形成をすることとしてございます。交通利便性をはじめ、立地ポテンシャルの高い地域でのエリア形成を推進する観点から、都市軸の結節性等を重視し、３つの考え方をもとにエリアを設定してございます。

具体的なエリア設定の考え方は、資料２の 28 ページをご覧ください。

まず①といたしまして、「中央環状都市軸」と「東西・南北都市軸」の交点に位置し、大阪の成長・発展をけん引するまちづくりが進行中、または今後を期待されるエリアとして３つのエリアを、②といたしまして、「中央環状都市軸」と「東西・南北都市軸」の交点に位

置し、大阪の成長・発展を支えるまちづくりが進行中、または今後期待されるエリアとして４つのエリアを、さらには、③といたしまして、放射都市軸のうち郊外部で市街地が連坦している「京阪都市軸」、「大阪高野都市軸」、「阪和都市軸」上に位置し、その中心を担うに相応しいまちづくりが進行中、または今後期待されるエリアとして３つのエリアを設定してございます。それぞれの拠点の詳細につきましては、次の 29 から 38 ページにかけて記載しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

続いて、説明資料８ページの下段をご覧ください。

ここでは「経済成長を促す産業拠点・集積エリア」といたしまして、「大阪が強みを有する産業の強化」、「ベイエリアや主要幹線道路沿道等での産業立地の誘導」、それから「イノベーション創出拠点の形成」を位置づけてございます。

次に、９,10 ページをご覧ください。

戦略２では、大阪ならではの魅力を活かし、暮らしやすさ No. １都市を実現することを位置づけてございます。大阪が持つ地域資源と都心部などへのアクセスの良さという特徴を最大限に活かしたまちづくりを進めることで、新しい郊外の創造をはじめとした新たな職・住・遊の生活スタイルを先導する都市をめざすこととしてございます。

具体的なまちのイメージと取組の方向性を大きく３つに大別してございまして、「１）駅周辺での拠点形成と魅力ある生活圏の創造」、また「２）郊外住宅地を多様な世代が住み、働き、交流するまちへ再編」、「３）豊かな自然を活かしたまちづくり」に取り組むこととしています。

続いて、11,12 ページをご覧ください。

戦略３では「海・川・山や多様な地域資源を活かし、地域を活性化」することを位置づけてございます。豊かな自然環境や歴史・文化・景観資源をはじめとした多様な地域資源が集積するという大阪の強みを活かし、府県域にとらわれず広域的に連携することで各地域ひいては大阪、関西全体の活性化を図ることとしてございます。「１）大阪広域ベイエリアのまちづくり」といたしまして、夢洲における大阪・関西万博のインパクトや泉州地域沿岸部の様々な地域資源を最大限に活用したまちづくりを、また「２）河川空間を活かした魅力あるまちづくり」といたしまして、沿川市町村が有する個性豊かなストックを活かしたまちづくりを、また「３）周辺山系の自然資源等を活用したまちづくり」として、山や自然歩道などの自然資源等を最大限に活用したまちづくりを、「４）多様な地域資源を活かした魅力あふれる都市空間の形成」といたしまして、大阪府全域を対象に歴史・文化・景観・アートなどの地域資源を活かしたまちづくりに取り組むこととしてございます。

続いて 13, 14 ページをご覧ください。

戦略４といたしましては、人・モノ・情報の交流を促進することを位置づけてございます。まず、「１）交通インフラと連携したまちづくり」では、「① 道路ネットワークの機能強化と沿道まちづくり」といたしまして、都市の骨格となる道路のネットワークの充実・強化や幹線道路沿道のポテンシャルを活用したまちづくりの推進など、また、「②交通ネットワー

クの充実と沿線まちづくり」といたしまして、都市の骨格となります鉄道等によるアクセス向上や、新たな交通システムの導入などの取組の推進、鉄道延伸や高架事業等にあわせたまちづくりの推進など、また、「③ 空港・港湾の機能強化等」といたしまして、国際競争力のさらなる強化を図るため、西日本のゲートウェイとしての空・海の機能強化を図ることを位置づけてございます。

次に「２）豊かな都市空間を創造するまちづくり」では、「① 人中心の快適で魅力ある空間の創出」といたしまして、まちのメインストリートなどにおきまして、ゆとりある空間や良好な景観形成、官民連携によるエリア価値向上等の取組等によりまして、魅力あるウォーカブルなまちづくりを推進すること、②から⑤にかけて、移動の快適性、回遊性などを高めるため近年注目されております自転車・水上交通・パーソナルモビリティなどの新たなモビリティ、空飛ぶ車などのエアモビリティを活用したまちづくりに取り組むこととしてございます。

15 ページをご覧ください。

戦略５といたしまして、「安全・安心でグリーンな社会を実現」することを位置づけてございます。安全・安心なまちづくりでは、「① 人命を守る都市機能の強化」として、防災・減災の視点に立った土地利用の誘導や、地震・津波・高潮対策、治水対策・土砂災害対策、防災体制、地域防災力の強化等に取り組むこととしてございます。また、「② 供給処理施設の機能維持、再構築とまちづくりへの利活用」に取り組むこととしてございます。

次に 16 ページでは、「グリーン社会の実現に向けたまちづくり」として、「① みどりを活かした魅力あふれるまちづくり」、「②脱炭素社会の実現に向けたまちづくり」、「③循環型社会の実現に向けたまちづくり」を位置づけてございます。

17 ページをご覧ください。

「グランドデザインの推進に向けて」ということでまとめさせていただいておりますが、まず「（１）まちづくりに関わる様々な主体の役割及び推進体制」といたしまして、今回のグランドデザインの推進に向けましては、まちづくりに関わる各主体がそれぞれの特徴を踏まえた役割を果たすことが肝要であること、そのためには大阪全体のまちづくりの推進役を担う大阪府が中心となって、市町村との連携強化を図るための体制整備やテーマに即した関係者が参画する体制の構築を図ることなどを示してございます。また、「（２）グランドデザインの推進に向けた取組」といたしまして、先ほどの推進体制のもと、民間の活力を最大限発揮しながら、多様な主体が一体となったまちづくりを進めることとしてございまして、そのための取組として５つ書いてございます。まず、「多様な主体の共有や参画を促し、まちづくりの機運醸成等を図る取組」、それから「民間主導のまちづくりを推進するための環境整備」、「市町村及び広域連携のまちづくりの推進」、「まちづくりを育てるための取組の推進」、「グランドデザインの進捗管理」を進めることとしてございます。

最後に、18 ページをご覧ください。

「取組ロードマップ」ということで、短期が 2025 年の春、中期が 2030 年ごろ、長期とい

たしましては、2040 年から 2050 年ごろを目標としたまちづくりの戦略に基づく主な取組のロードマップを抜粋して説明資料に記載しております。詳しくは資料２の 69 ページから 72 ページにかけまして５つの戦略のそれぞれに基づいて、ロードマップとして短期・中期・長期でどういった取組が進むかということについて記載してございます。

資料２の 73 ページから 76 ページは戦略１から５にかけて取り組んでおります、府域におけるまちづくりの取組をプロットしたものでございます。73, 74 ページが北部、75, 76 ページが南部といった形でまちづくりマップをお示しさせていただいてございます。

策定に向けた今後のスケジュールですけれども、本日の第３回推進本部会議におきまして案がとりまとめられれば、今後、パブリックコメント等の手続を経まして、本年内を目途に策定する予定でございます。

以上、事務局の説明はこれで終わらせていただきます。

（司会）

それでは、ご意見やご提案などを頂戴したいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

大阪府町村長会会長（田代町長）

岬町長の田代ですけれども、ただいまの説明の中で戦略２の暮らしやすさ No. １都市の実現の中で、豊かな自然を活かしたまちづくりが、また戦略３でベイエリア、周辺山系の自然資源等を活用したまちづくりが示されるなど、特に町村に焦点を当てた取組が位置づけられております。そのことについては、非常に評価できると私は考えておりますけれども、その中で一つの例としまして、私ども岬町では民間活力の活用について、現在閉園されたみさき公園を一つの民間事業という PFI で行う契約を終えたところですけれども、地域の魅力向上や経済発展につなげるためには、やはり民間活力を活かすことは大変重要かなと思っております。

そういったことから、今回のグランドデザインの推進に当たっては、民間活力の活用については先ほども申しましたとおり、人口または財政規模の小さい町村ではこういった事業というのは不可欠であるのかなと思っております。

吉村知事が大阪府域全体を考えたグランドデザインということをいつも言っていただいて、我々北の端、また南の端の自治体にとってはありがたいなと思っております。その中で、やはりそういった規模の小さい自治体においては、どうしても民間企業の参入も少ないという課題にご配慮いただきたいという思いがございます。

そういった中で、先ほども申し上げましたとおり、北から南までの全ての市町村において、民間活力を最大限活かした取組が進められるよう推進本部が旗振りをしていただいて、民間活力を最大限に活かした取組を行っていただきたいと思います。そのためには、やはり各市町村の連携強化が必要かなと思っておりますので、どうかこのグランドデザインが、実現

可能となるように事務方におかれましても努力をしていただきたい。このことを申し上げておきたいと思います。以上です。

（司会）

ありがとうございます。みさき公園の再生事業を例にいただきまして、民間の活力の活用といった点で、グランドデザインの推進に当たりましても我々しっかりと取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。そのほか、ご意見等ございませんでしょうか。

大阪府市長会会長（野田市長）

今回、大阪全体を俯瞰的に見て、なおかつまちづくりに対して、未来に対してワクワク感を感じられる、まさに素敵なまちづくりのグランドデザインがいよいよできあがる、そういう意味では非常に期待するところです。これだけのものなので、前回も申し上げたかと思いますが、それぞれの自治体が持つ総合計画、あるいは我々首長は年度当初に市政運営方針ということで述べているわけですが、そこでこのグランドデザインをどうそれぞれの自治体が組み込んでいくか、取り組んでいくか、ここが一つの実効性を担保できるものになってくるのではないかと思います。これはもう、しっかりと我々がやっていかなければならないと考えます。

もう１つは、このグランドデザインに基づいて、大阪府が主導的にやっていただけるということはよく分かっておりますが、我々個々の自治体も、いわゆる自治体連携という言葉をさらに一歩二歩踏み込んだ自治体間同士の繋がりというものが必要なのかなと思います。それは１つの仕組みとして、そうしていくかどうかは、これから各自治体の議論も必要かと思いますが、そういった我々自治体側も、より一層能動的に今までの自治体連携ではない、大阪全体を発展させるために、それぞれの自治体がどういう形であるべきなのか、そういった議論も必要ではないかと今感じております。

最後に１点ですけれども、このグランドデザインの中で、やはり私は大阪の未来を考えたときに、今一歩である副首都機能ということをご検討されていますけれども、少なくとも考え方、理念というのはこのグランドデザインの中に既に副首都機能ということを明記してもいいのではないかなと思います。そうすると冒頭申し上げました、このグランドデザインに対するいわゆるワクワク感というものが、より一層高まってくるのではないかと思います。私の方から以上です。

（司会）

ありがとうございます。グランドデザインと各自治体の計画や方針への落とし込み、連携についてご意見を賜りました。推進に当たりましても引き続き、各市町村の皆様と緊密な連携をとりながら進めてまいりたいと考えております。

副本部長（永藤市長）

皆さんと協議を重ねてきましたが、大阪府域全体を見渡して各地の特性や現在進められている取組も踏まえて、しかもそれに沿った形で未来の方向性が示された、とてもいい内容に仕上がっていると思っています。まとめていただいた事務局の皆さんに感謝申し上げます。

ぜひ府内の自治体が協力して、このグランドデザインに描かれた案を実現できるように取り組んでいただきたいと思いますし、もちろん堺市としても取り組んでいきます。

先ほど野田市長がおっしゃったことに関連するのですが、大阪府全体でこのグランドデザインと整合性をどう保った上で進めていくのかが重要になってくると考えておりまして、先ほどの説明資料でいうと、17 と 18 ページがまさにそこの部分かなと思っています。特に 2050 年という大変長期を見据えたプランとなりますので、その間には首長の選挙もあって、自治体の首長が代わっても、このグランドデザインの大きな方向性がぶれないように進めていく必要があります。ですので、基本的な方向性を共有していくような仕組みが必要じゃないかと考えています。今日は規約もつけていただいていますが、この推進本部は「とりまとめと推進を目的」とありますが、事務局の皆さんにお伺いしたいのですが、今後もこのような推進本部会議は、これからの各自治体間での情報共有や方向性をとりまとめる、同じ思いで進めていくというためにも、継続して会議を開催するという認識でよろしいでしょうか。

（司会）

おっしゃっていただいたように、規約の中で「作ること」「推進すること」と 2 つを書いてございますので、17 ページにも書いてございますように、推進本部については、参画メンバーも考えながら、今後も引続き推進のために続けていきたいと考えてございます。

副本部長（永藤市長）

大変良い内容ができたと思っていますので、絵に描いた餅にするのはもったいないので、ぜひこれが実際に実現されるように、年度経つごとに良くなってきたなと感じられるような仕組みを構築していただきたいと思います。以上です。

（司会）

ありがとうございます。長期にわたるグランドデザインの継続性について取り組むようにとご意見を頂戴いたしました。ありがとうございます。その他ございませんでしょうか。

副本部長（松井市長）

このグランドデザインの必要性・重要性というのは、日本を持続可能な国として今後成長していくためには、東のメガリージョン、東京・首都圏だけでは、これから少子化・超高齢

化社会になって人口減少社会の日本を引っ張っていけないわけで、我々がやはり西の拠点を作っていくというのが、このグランドデザインに取り組む大きな理由の一つです。

僕は知事や府議会議員もやってきましたけれども、当時はこのグランドデザインを大阪でつくれない政治状況というか、大阪市が真ん中で力を発揮して、周りに広げてやろうといって、一緒にやっていこうという思いにならないと出来ないわけで、今やっとここまでグランドデザインができたわけですから、永藤市長が言われるように、この方向性を 2050 年までに本当に実現していくんだという強い意思を 43 市町村みんなでやらなければならないと思います。

僕も今、大阪市長として大阪府市長会のメンバーですけれども、これは市長会でこのグランドデザインを各首長の皆さんに理解していただいて、それぞれの各自治体の思惑や、実際の思いというものはいろいろありますけれども、大きな方向性は「大阪のまちづくりはこれでやろうよ」という意思をとりまとめていくというのが重要なのかなと思います。

僕はもちろん、大阪市長として賛成です。今日は市長会会長、野田市長が来られているわけなので、そして田代町村長会会長も来られていますから、これから 43 の市町村みんなでこの方向でやろうよという、議決というよりも「大きな方向性を了解した」みたいなのは、この機会にぜひ作っていただきたいなと思います。

これがもう一つの設計図ですから、2050 年にはこれが完全に 100%実現できているというが理想ですけれども、いろいろなインフラ工事等々もありますから、全部はできないにしても、方向性を一にしていくというのが一番重要なのかなと思います。その大きな方向性を一にするには、我々がずっと言い続けてきた行政制度が大阪都という制度になっていれば、都知事の権限でどんどん進められるのですが、そういうことにはならないという状況の中でも進めていくのが、先ほど田代町長も言われていましたけれども、それぞれのエリアで暮らしやすく働きやすい都市になると思います。その辺は、ぜひ市町村長会議でも認識を共有できるように協力をお願いしたいです。

大阪市としては 10 月 28 日には新大阪駅周辺が都市再生緊急整備地域にも指定されましたから、これは世界有数の広域交通拠点ターミナルとなるのが動き出します。その一つ一つの拠点整備は、新今宮はもう動き出していますし、森之宮も動き出しますので、これは確実に決められたスケジュールで完成させていくというのをしっかり実現したい、こう思っています。

（司会）

ありがとうございます。西の拠点づくりに向けまして、全市町村の皆様とともに進めていくという観点から、ご意見を賜りました。ありがとうございます。それでは他にご意見ございませんでしょうか。

本部長（吉村知事）

大阪のまちづくりのグランドデザイン、これはまさに皆様おっしゃったとおり、大阪全体のまちづくりの羅針盤になるものだと思っています。継続性もそうですし、ロードマップも年次ごとに、一定これを示しています。

大阪全体でこういったまちづくりをしていこうよ、という同じ方向を向いた道筋、羅針盤が重要だと思いますので、この会議はもちろんですけれども、また市長会、町村長会でもぜひご了解をお願いしたいなと思っています。

また、それにあたって大阪都市計画局が中心になってしっかりやってもらいたいと思います。大阪都市計画局は、大阪府と大阪市が一体になった部局で、大阪全体の都市のまさにグランドデザインを描いていく頭脳の部門でもあります。ぜひ、そこのところをよろしくお願いします。

野田市長のおっしゃったとおり、市町村間の連携も非常に重要だし、そして、あわせてこの計画を具体的に見ていくと、鉄道と非常に関連しています。民間との協力、これは田代町長がおっしゃったとおりですけども、民間の中でも鉄道との連携、これら拠点を見ても駅を中心にまちづくりをする場合が多いですから、鉄道との協力、鉄道沿線のまちづくりが非常に重要だと思うんですけれども、この辺りについて事務局、本部員の皆さんの方でご意見などありますか。

本部員（田中副知事）

鉄道沿線のまちづくりでございますけども、駅周辺の拠点性向上や、広域ネットワークの強化といったことに加えまして、ポストコロナでの新たな生活様式への対応、さらにはオンデマンドなどを含む地域公共交通の新たな展開といったことも大いに期待されますので、大変重要なテーマ、課題だというふうに思っております。

本部長（吉村知事）

ぜひ、その鉄道事業者を含めた民間事業者、駅周辺での拠点となるまちづくり、市町村と連携、これをしっかり進めていってもらいたいと思います。

また、せっかくこうやってグランドデザイン、大阪全体の羅針盤が定まったわけですから、これに関する情報発信、「大阪全体でまちづくりをこういうふうにしていくんだ」という情報発信をもっと積極的にしていければいいなと思っていますので、ロードマップもしっかりつくっているわけですから、そこをぜひよろしくお願いします。

また、それぞれ副知事、両副市長、都市計画局も入っていますので、民間をぐっと入ってもらって束ねながら、市町村とも当然連携をとって、そして「大阪全体のまちづくりの方向性はこれでいくんだ」ということを政治行政的にも一つになって、成長戦略をつくっていく、まちづくりをつくっていく、羅針盤にしていくというものにしたいと思いますので、よろしくお願いします。

松井市長が冒頭おっしゃったとおり、やはり西日本の拠点、東西軸の東の東京、西の大阪と、関西のメガリージョンの中心となるのが大阪になると思っています。野田市長も副首都のエッセンスを入れるべきだというご意見で、そのとおりだと思います。そういったまちづくりというのは、副首都やあるいは大阪、関西のメガリージョンの成長のまさに道しるべになるものなんだということも意識して、このグランドデザインが着実にロードマップに基づいて実行されるように、これからもよろしくお願いします。

（司会）

ありがとうございます。本日は貴重なご意見を多数頂戴いたしました。誠にありがとうございます。

最後に今後のスケジュールについてお知らせを申し上げたいと存じます。本日頂戴しましたご意見等を踏まえまして、11 月の中旬ごろからパブリックコメントを実施いたします。その後、12 月末を目途に、大阪のまちづくりグランドデザインとして策定を行う予定でございますので、よろしくお願いを申し上げます。

それでは以上で、本日の議事はすべて終了いたしました。これをもちまして、第３回新しいまちづくりのグランドデザイン推進本部会議を閉会いたします。

皆様、誠にありがとうございました。

― 以上 ―